

姿川（北部）地区

I 協議体の概要

名 称	第2層協議体		
設置年月日	平成30年8月24日	開催頻度	3～4回/年
構成団体（◎：事務局）			
<input type="radio"/> 自治会連合会	<input type="radio"/> まちづくり協議会	<input type="radio"/> 民生委員児童委員協議会	<input type="radio"/> 地区社会福祉協議会
<input type="radio"/> 老人クラブ連合会	<input type="radio"/> 福祉協力員連絡会	<input type="radio"/> 健康づくり推進委員会	第2層生活支援コーディネーター
<input type="radio"/> 市社会福祉協議会	◎ 地域包括支援センター	<input type="radio"/>	その他（県警、郵便局）
設置方式			
<input type="radio"/> 新規設置	既存会議活用（ ）		<input type="radio"/> 地域ケア会議活用
設置要綱・会則等の有無	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
設置までの経緯			
時 期	内 容		
平成29年 8月	地域ケア会議：（メンバー：自治会連合会、まち協、地区社協、民児協、医師会、介護事業所等16団体） → 地域包括ケアシステムについて共通理解を図った。		
平成30年 2月	地域ケア会議 → 認知症の方とその家族に対する地域支援について検討		
6月	地域ケア会議 → 第2層協議体設置に向けた検討を行い、地域ケア会議を第2層協議体として位置づけることについて提案された。		
8月	関係者会議（メンバー：自治会連合会、まち協、地区社協、民児協、福祉協力員連絡会、健康づくり推進委員会等） → 第2層協議体設置（地域ケア会議活用型）について合意形成を図った。		
〃	第2層協議体設置		
協議体における検討内容			
地域情報の共有、 課題やニーズの把握について	<ul style="list-style-type: none"> 各地域団体からの活動報告及び課題について意見交換 地域資源マップの作成 		
支え合い活動について （見守り活動、居場所づくり、生活支援ボランティア等）	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者を支える地域のネットワーク構築に向けた検討 認知症サポーター養成講座の推進について検討 支え合いについてのワークショップの実施 認知症高齢者の理解と共生についてグループワークの実施 認知症カフェ「オレンジカフェとかみ」（包括砥上運営）の活動報告 		

II 取組事例

【「認知症高齢者の理解と共生」をテーマとした、地域のネットワークづくりについて検討】

地域の認知症高齢者を見守り、支えることができる地域のネットワーク構築を目的とし、「認知症高齢者の理解と共生」をテーマに、認知症に関する理解促進や、認知症高齢者への支援の方法などについて、話し合いを進めている。

これまでに、認知症に関する研修、グループワークを行うとともに、認知症サポーター養成講座の推進について検討を行った。

経緯：平成30年11月 姿川北部・南部協議体の進め方、今年度の推進目標、協議体構成メンバーなどについて検討
12月 地域資源マップ作製
平成31年 2月 地域資源マップ作製
近隣助け合い体験（ワークショップ）を通し協議体を学ぶ
4月 今年度推進目標「認知症高齢者の理解と共生」の確認
令和元年 6月 認知症高齢者発見時の連絡網、ネットワークについて検討
8月 研修「認知症高齢者の理解と共生」講師：齋藤 和考氏（(株)照和）
11月 認知症高齢者の検索模擬訓練の実施とオレンジカフェについて検討
⇒ 認知症サポーター養成講座の推進を検討
令和2年 2月 認知症サポーター養成講座推進に向けた意見交換

【「認知症高齢者の理解と共生」をテーマにしたグループワークの実施】

- ① 認知症に関する地域内での困りごとを抽出
- ② 困りごと解決のために地域内で必要な取組と役割について意見交換



認知症に関する困りごと（地域で困っている人、事例など）についてKJ法を用いて整理し、その上で「地域でできることは何か」をテーマに意見交換を行った。

効果（検討中の場合は、期待する効果）

認知症に関する地域の困りごとや解決のために地域内で必要な取組・役割について、検討することができた。

#

III 協議体を設置して、良かったこと

勉強会やグループワークを通して、地域の認知症高齢者に対する理解を深めるとともに、地域課題や取組の方向性を共有することができた。

IV 今後の方向性

認知症高齢者を支える地域のネットワークの構築に向けて、以下の視点から取組を検討・実施していく。

- ・ 地域住民（特に若年層）に対する周知啓発
- ・ 教育機関との連携
- ・ 認知症サポーター養成講座の小単位（自治会等）での実施